

警城經濟新報

發行日五日、廿日(二回)
編輯兼
印刷人 鈴木昌雄
發行人
福島縣石城郡平町
十五丁目廿二番地
發行所 磐城經濟新報社
廣告(五場)字詰一行廿
料(錢)場所指定拾錢増
新聞(二部)十錢月二十錢
定價(一年)貳圓四十錢

難治村から

明
る
い
村
へ
!!!
●●●

豐間漁業組合解定

豊間の癌と迄稱された漁業組合の開通を見近き將來には漁港の不正事件も修築も實現するに至る可く同村

檢事局

の取調と共にの發展と向上は期し待つべきも

さうにも手の着けられない頑迷のがあるが、伏魔殿として世人な組合長遠藤や之亟氏も逐一自から見られた漁業組合も明るみ自するに至り、五千二百余圓はに曝露されて不正を一掃される

殘金四千余圓は縣當局から會計は比較的政治の激しい村だけに
検査出張を待つて組合の一切の村議改選の場合には必ず二三名の
事務を引繼ぐ場合に辨償する事超過を見猛烈な選舉運動を行ひ

引責辭職　此の程藤之丞氏は、この爲め昨日まで親密な間柄になつたが、する事になつても忽ち犬猿も只ならざる間柄となつた。たの役員の改選を行つた結果となり村治上頗る悪弊と支障を組合長に馬目常吉、理事に鈴木乗したものであるが、這般の村

村義改選よ
繁松、遠藤惣三郎、大峰千代次
鈴木岩吉の諸氏當選した。
議改選に當つては村當局は過去
のにがい體驗に鑑み無競争の選
舉を行ひ圓滿に終了せしめたい

無競争

村當局の斡旋で

念慮から有志や立候補の意志ある人々の間に斡旋し遂に無競争の選挙を行つたが、この事實は同村に取りては未だ曾て見ざる

無競爭

村當局の斡旋で

疑雲に包まれた豊間漁業組合は事であつて難治村と稱された同
結局遠藤藤之丞氏の辭職と組合村も斯くして明るい村に轉回さ
金の辦償に依り解決する事になれてゆくので村民は何れも村當
た豊間賓も漸次月々、寸寸變局の努力に感謝してゐるといふ

つてきた。元來同村は難治村として知られてきたが、村當局は勿論有志家の熱心な努力に依り

豊間の紹介は

遠藤氏の力

遠藤氏の力

て着々村の改善に努め既に電話豊間村の開発の爲めに常に奮闘

努力し東京方面から落客の吸賄に努めてゐる遠藤只之助氏は今夏も府立三中から百名近くの落客がきたので設備等の改善に努めてゐるが、同氏のこれまで豊間濱を東京地方に紹介した功績は決して没する事ができないと村の有志家は語つてゐる。

發展

開業早々患者で雑踏

草野村驛前に昨年十月開業した齒科醫院坂本惣次郎氏は開業日尙淺いが地方の信望を得、親切

丁寧な所から頗る氣受けよく日
日患者で雜踏を呈する状態であ
るが、氏は磐城家の支流で祖先
は好間太郎左衛門源義秀で徳川

新聞の新聞
【卅四】

された某村會議員これ又大こぼし。

東北實業の吉村君、新聞なんか止めて金貸し業になるんだ

と東奔西走してゐたが、持病の喘息で困つた困つたと大こぼし。

磐城調査新報の島目君 全紙
を廢刊して新に磐城昭和新報
を創刊、陣容を改め操觚界に
氣を吐く可く準備中。

過般行はれた各町村の改選に

100

1

事業界不振時に
植電の好

當期利益七萬
田水力電氣株式會社定期總會
賞與金
二十四日午前十時より同町磐
金(年)

銀行に於て開催したが、本年
上半期決算報告並に利益金處
案を附議したが、當期利益金は
二、千、四、百、五、十、五、圓、十、四、錢、三、厘、

▲投書
金三千

し、今期の營業狀態は磐炭經
の千代田炭礦が休山した爲め
力料に於て昨年より幾分の減
るもの
新聞社
するも
てゐる

圓の財産消却を今年は一萬五
 千圓の増收入を見て
 於て約七千圓の増收入を見て
 る、而して前年度半期一萬五
 千圓の増收入を見て
 知。

不

當期利益金並に前年繰越金
合計七萬四千五百四十五圓十
分左の如し。

五錢 諸銷却五千圓 社債利
子引當七千九百六十八圓五十
錢 法定積立金四千圓 從業
員退職扶助資金一千圓 役員
供給量に

新
聞
の
新

東北實業の吉村君、新聞なん
が止めて金貸し業になるんだ
と東奔西走してゐたが、持病
で困つてゐたところ、大
阪府の
際して
の行脚
で僅少
縣から
で毎

岩城調査新報の馬目君、全紙
 欄刊して新に警城昭和新報
 を發し、
 喝的に出
 た氣味、
 だぞ釋さ
 だぞ釋さ
 だぞ釋さ

創刊、陣容を改め操觚界に
 力を吐く可く準備中。
 □
 連中こそ
 のだと、

[illegible]

坂下町三丁目會館